

- 2面 国民健康保険・長寿（後期高齢者）医療制度のお知らせ
- 3面 幼児サークル・サロンのご利用を
- 4・5面 高齢者保健福祉計画・第4期介護保険事業計画を策定
- 8面 75歳以上の方の健康診査・がん検診
- 8面 「観光案内窓口」「観光ガイド」制度の名称・協力団体を募集
- 8面 芸術体験ひろば



しんじゅくコール
☎ (3209) 9999
(午前8時～午後10時、1/1～3を除く毎日)

発行 新宿区 編集 区政情報課 (毎月5・15・25日発行)
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1 ☎(3209)1111
ホームページ <http://www.city.shinjuku.tokyo.jp/>
携帯電話版 http://www.city.shinjuku.tokyo.jp/mobile/index_mobile.html



次世代育成支援に関する調査結果が まとまりました

「新宿は子育てしやすい」と答えた方の割合が前回調査より増加

区では、新宿区次世代育成支援計画に基づき、「子育てしやすいまち新宿」の実現に向けて、さまざまな子育て支援策を進めています。21年度はこの計画を見直し、「新宿区次世代育成支援計画（後期）」を策定する予定です。

そこで、計画の成果を検証し、見直しの基礎資料とするため、20年11月中旬に、区民の皆さんの子育ての状況や少子社会に関する意識について調査しました。



区民の方5,000名を対象に郵送で実施し、2,547名の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

調査結果の概要版は、子ども家庭課・区政情報センター（本庁舎1階）・特別出張所・児童館・保育園・区立図書館等で配布するほか、新宿区ホームページの子ども家庭課のページでご覧いただけます。

【問合せ】子ども家庭課企画係（本庁舎2階）☎(5273)4260へ。

◆新宿の子育て環境

「子育てしやすいまちだ」というと答えた方は、就学前児童の保護者で35.9%、小学生の保護者で35.0%でした。

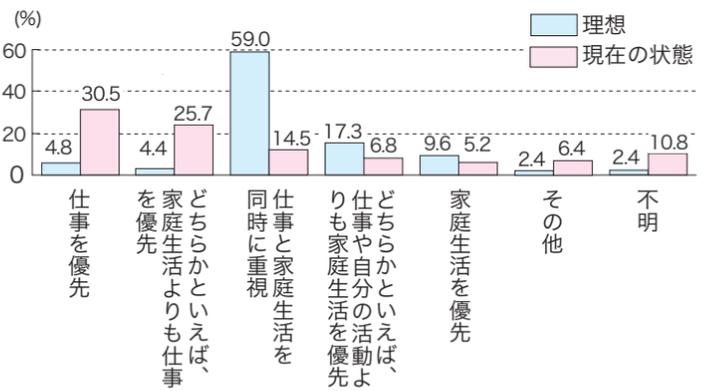
次世代育成支援計画では、新宿区が「子育てしやすいまちだ」という方の割合を、21年度までに、就学前児童の保護者は32%に、小学生の保護者は21%にする目標値を掲げました。今回の調査では、いずれも目標値を上回りました（右表）。

調査対象者	新宿が「子育てしやすいまちだ」と答えた方の割合			
	15年度調査 (計画策定時)	20年度調査	目標値 (21年度)	(%)
就学前児童の保護者 (920名)	24.7%	35.9%	32%	35.9
小学生の保護者 (924名)	16.6%	35.0%	21%	35.0

調査対象者	新宿が「子育てしやすいまちだ」と答えた方の割合			
	15年度調査 (計画策定時)	20年度調査	目標値 (21年度)	(%)
就学前児童の保護者	24.7%	35.9%	32%	35.9
小学生の保護者	16.6%	35.0%	21%	35.0

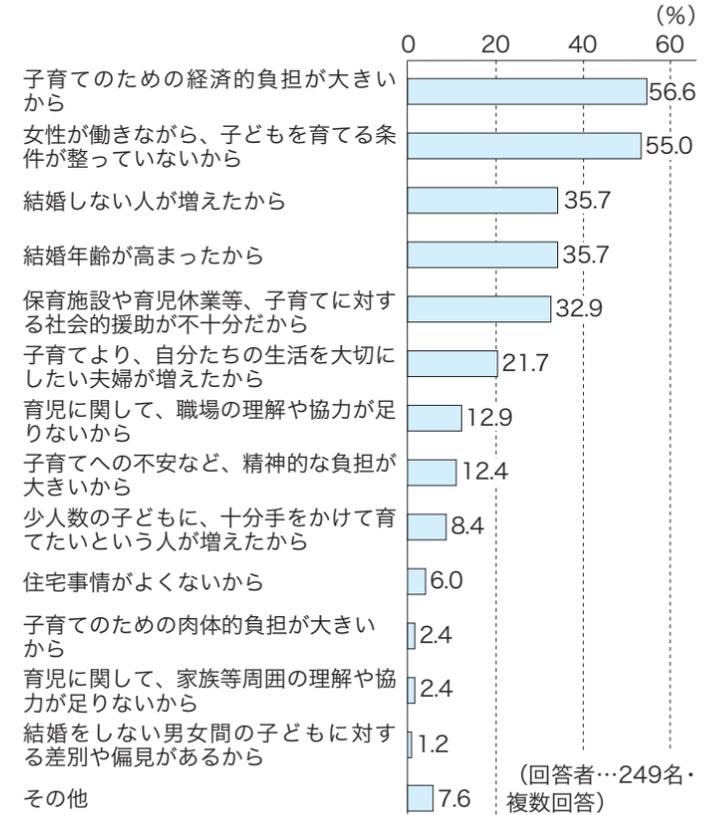
◆仕事と生活のバランス

「仕事と家庭生活を同時に重視したい」と考えている方が59.0%と多いものの、現状では仕事を優先している人が多くなっています。



◆少子化の原因

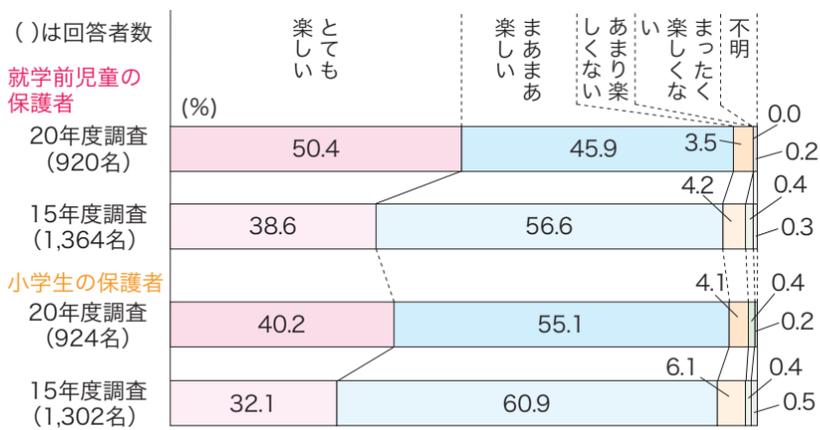
「子育てのための経済的負担が大きいから」(56.6%)と、「女性が働きながら、子どもを育てる条件が整っていないから」(55.0%)が多くなっています。



「広報しんじゅく」臨時号を発行
「定額給付金・子育て応援特別手当臨時号」を、
本日4月15日の新聞に折り込んでいます。
【問合せ】定額給付金等対策室(第一分庁舎8階)
☎(5273)4503へ。

◆子育ての楽しさ

子育てを「とても楽しい」と感じている保護者の割合は、就学前児童の保護者で50.4%、小学生の保護者で40.2%で、いずれも前回の調査より高くなっています。



区長 中山 弘子 (ひろこ)

「区民の約3万人を超える外国人が暮らす新宿のまちには、留学や仕事で来日する多くの外国人が地域で暮らすことができています。区は、外国人が地域で暮らすことができて、暮らしの情報を、英語・中国語・ハングル語・日本語付きで提供するほか、日本語教室を開催するなどして支援してまいります。今春から、外国人登録窓口では、先に来日した先輩が新たに新宿区民となる後輩に向けて生活のルールと習慣をアドバイスする「新生活スタートブック」を一人一人に配布しています。これは、平成17年9月に開設した「しんじゅく多文化共生プラザ」ネットワーク連絡会のメンバーの協力を得て作成したものです。『漫画で見る日本の住まいのQ&A』など、先輩たちが自分の体験や失敗からアドバイスする内容は示唆に富んでいます。また、あいさつや笑顔の大切なことなど、言葉や文化の違いを超えて、私たちのコミュニケーションのあり方を考えるにも参考になります。町会連合会が、マンション・集合住宅居住者に「迷ったときは、町会・自治会へ」と、住みよいまちづくりのため入会を呼びかける活動も始まりました。多様な文化やライフスタイルが交流する、いきいきとした新宿づくりに、多くの人々が取り組んでいることをうれしく思っています。

コラム 新宿 まち・人・しごと

区の人口の約1割、3万人を超える外国人が暮らす新宿のまちには、留学や仕事で来日する多くの外国人が地域で暮らすことができています。区は、外国人が地域で暮らすことができて、暮らしの情報を、英語・中国語・ハングル語・日本語付きで提供するほか、日本語教室を開催するなどして支援してまいります。今春から、外国人登録窓口では、先に来日した先輩が新たに新宿区民となる後輩に向けて生活のルールと習慣をアドバイスする「新生活スタートブック」を一人一人に配布しています。これは、平成17年9月に開設した「しんじゅく多文化共生プラザ」ネットワーク連絡会のメンバーの協力を得て作成したものです。『漫画で見る日本の住まいのQ&A』など、先輩たちが自分の体験や失敗からアドバイスする内容は示唆に富んでいます。また、あいさつや笑顔の大切なことなど、言葉や文化の違いを超えて、私たちのコミュニケーションのあり方を考えるにも参考になります。町会連合会が、マンション・集合住宅居住者に「迷ったときは、町会・自治会へ」と、住みよいまちづくりのため入会を呼びかける活動も始まりました。多様な文化やライフスタイルが交流する、いきいきとした新宿づくりに、多くの人々が取り組んでいることをうれしく思っています。